

ふれあいトーク記録書（岩倉五条川桜並木保存会との意見交換会）

- 開催日時： 平成30年 7月20日（金） 午後 1時30分～午後 3時45分
 場 所： 市役所7階 第2・3委員会室
 参加人数： 岩倉五条川桜並木保存会13人・市議会議員15人・市職員2人（議会事務局長、商工農政課長…途中退席）
 次 第： 1. 開会挨拶 黒川議長、岩倉五条川桜並木保存会・長谷川会長
 2. 岩倉五条川桜並木保存台帳（2017年11月更新記録解析）の説明
 3. 意見交換
 4. 閉会挨拶 宮川議員

司会／大野議員、記録／木村議員、写真／宮川議員

項目	参加者の意見・質問	議会の応答
市の補助の拡大について	<p>会費と募金だけで活動している。剪定鋏の購入補助を求める。4千円×40人×1/2程度の予算。樹木医から「道具の手入れを十分すること。腐朽菌の入り口をつくっているようなもの」と言われている。</p> <p>市民活動助成金で創立10周年記念誌を作成した。実態調査への補助はなかった。</p>	<p>実態調査のための台帳作成への補助は出ているのか。</p>
市への要望について	<p>市への要望はしていない。肥料などが現物給付されるようになった。河川の環境整備は「岩倉の水辺を守る会」への委託費に含まれているようだ。道具や倉庫の費用など約200万円はすべて自前。樹木医への謝礼も今までは自前だったが、今年度は市が2万円を予算化。</p>	<p>市への要望とそれに対する市の態度はどうか。議会には予算編成の権限はなく、執行機関が提案する予算を議決する権限しかない。</p>

	<p>年間50万円という保存会の予算ではやっていけなくなっている。市の桜並木関係予算も年間880万円と少ない。他の予算と比較してみしてほしい。</p> <p>とりあえず自分たちでやれることを手弁当でやっというところから始めた。それを市民に評価してもらおう中で、財源をどうするのかを考えてもらうというスタンス。100人超の会費と事業収益と募金からの繰り出しだけでやっている。雑草の中で作業しており、草刈りをお願いしたい。</p> <p>市内でさまざまな団体が寄付を集めており、余力があるかは疑問。ふるさとづくり基金は桜並木保存の今後の大きな事業の財源にしてほしい。880万円の予算のうち600万円がふるさとづくり基金から出ている。「いわくらしやすい109の理由」でも桜並木に関するものが大多数となっており、市民がいかに桜並木を大切にしているかが分かる。</p>	<p>ふるさと納税の取り組みで、企業や行政区からの寄付を受け、賛助プレートを樹木にかけることをやっている自治体もある。市の補助と同時に検討してみてもどうか。</p> <p>自治基本条例での位置づけの割には予算が少なすぎる。桜サポーター制度なども検討してみてもどうか。</p>
<p>桜並木保存についての市の姿勢について</p>	<p>自治基本条例や総合計画でも桜並木保存については明確に打ち出されている。五条川自然再生整備等基本計画では、「岩倉五条川桜並木保存会が実施した既存調査（管理台帳）を活用し…」と位置付けられている。推進体制として「五条川自然再生推進会議」は機能しているのか。桜並木の保存・育成は三つの重点プロジェクトの一つ。5年間の短期計画という問題もある。長期の展望を示す計画も必要。担当課の縦割りとならないような</p>	<p>市民活動と行政の役割分担が行われていない。「岩倉の水辺を守る会」が委託事業を受けている。</p>

	組織改革も必要である。	
五条川の草刈りについて	大口町では、堤防の草刈りを町内会が受託して月1回やっている。岩倉市でもできないのか。	堤防道路の路肩から1mは市の管理。委託は可能である。 草刈りは7月で、保存会の作業が終わってからになっている。もう少し早く実施すべきである。
保存会参加者からの自由意見	<p>桜の木の間隔が4mしかない。長期的にどうしていくのか方針をつくる必要がある。市は項目だけ挙げて何も手をつけていない。桜まつりの中でも桜保存の意識啓発をすべき。ボランティアでは長続きしない。後継者の育成も必要。</p> <p>岩倉市で将来に残せるものは桜しかない。市へ要望していくので、議会からの援助もお願いしたい。桜並木保存についての市の窓口を一つにしてほしい。</p> <p>ふれあいトークはよい機会であった。回数を重ねてはどうか。</p> <p>草刈りなど人数が必要な作業は市民参加でお願いしたい。</p> <p>桜の倒木への対応に怒りを感じる。待ったなしの課題である。</p> <p>満足な桜は1本もない。回復手術が必要であり、費用もかかる。</p> <p>五条川自然再生推進会議は年1回のみ開催で、保存会</p>	<p>桜並木台帳の整理・管理の委託費、データ入力の人件費補助、道具購入補助、市の推進体制の設置、市の窓口の一本化、草刈りの問題、将来を見据えて長期計画策定など、課題は把握できたので、一般質問や議案質疑の中で執行機関と意見交換していく。</p> <p>議会として危機感を持たず、任せっきりにしてきたことを反省している。</p>

の意見も聞いていない。
弘前市の120年保存という例もあるが、長期的な面では答えが出ない。
先を見て植栽で後継木を育てるべきと考えるが、反対の声もあるので提言できない。弘前市の例があるから、何とか頑張っている。市全体で取り組む「草刈りの日」などを設定してみてもどうか。
樹木医の専門的な意見を聞いて、今後も手入れをしていくべきである。
100年で1000本の保存をめざしている。県の一宮建設事務所、岩倉市、大口町で平成25年に桜保存の会議があり、平成27年には7本の植栽が行われた。このような協議の場を今後ももっていく必要がある。
保存会も10年の歴史の中でやらなければならないことが増えてきた。市に要望していくので、議会審議で援助してほしい。